

畑田美智子さんの個展を觀賞して

奥田幸次郎

畑田さんのガラスアートは数色の層で被せ重ねたガラス素材を用いるもので、サンドブラストすることで表面から削り文様を浮き出させる技法で味わい深い作品が生み出されている。春夏秋冬の自然な風景を刻んだガラス彫刻は繊細な色の輝きを描くものでロマンチックなものとなっています。

2016年4月6日から11日まで池田駅にある池田市立ギャラリーでの個展はコンパクトな会場に新旧の作品が並べられた。注目されていたのは、ガラス茶器5点で、桐箱には武者小路千家家元の極め書が入っており、素敵なものでした。

畑田さんは2015年12月にニューヨーク市マンハッタンのギャラリー「サイト109」で日米交流事業として個展を開き評価を得ています。個展は、2003年9月にロシアサンクトペテルブルグ市で創作展を開いたのに続き2004年に池田市、2006年東京銀座、2008年羽曳野市と吹田市、2013年にパリ2015年3月に、ローマ、同12月にニューヨークで開催している。次回は英国のロンドンの予定と伺っています。15年間に9回とは自分でも信じられない。

主な個展

2003年 ロシアサンクトペテルブルグ市にて作品展

2004年 第1回個展「ギャラリーいけだ」

2005年 第2回個展「ギャラリー銀座」

2008年 第3回個展「ギャラリー・はびきの」

2009年 第4回個展「アート・ギャラリー銀座」

2009年 第5回個展「吹田メイシアター展示室」

2011年 第6回個展「ギャラリーいけだ」

2013年 第7回個展 日仏交流事業の公式プログラム「Etienne de Causans ギャラリー（パリ）」

2015年 第8回個展 日米交流事業の公式プログラム「ギャラリーサイト109（ニューヨーク・マンハッタン）」

2016年 第9回個展 MH 工房15周年記念として「ギャラリーいけだ」

畑田美智子個展を初めて訪れて

末村亘

個展のどの作品も絵柄がコンパクトにしかも印象強く描かれ、色彩がランプの照明でより鮮やかに映えています。色合いは竜田川の緑色の濃淡が特に見事で川の中の緑のもみじの葉が鮮明に描かれています。

作品に付けられた画題は作品にふさわしく文学的な表現で見る人の心に訴えてくるものがあります。何も専門的なことは分かりませんが、趣味としてやっておられたガラス工芸を国内のみならず海外へも高く評価された畑田さんの素晴らしい実力と感性、バイタリティには驚くばかりです。

畑田美智子先輩を称える

元吹田市長 阪口善雄

さあ、もう10年も前になりますでしょうか。私が吹田市長をさせていただいている時です。その当時の吹田市宅建協会吹田支部長をされている荒木さんから、畑田先生のことや作品発表会の案内があり、発表会にご一緒させていただきました。そのとき、まず驚きましたのが、宅建の支部長さんが女性であること、そして我が市大の、それも文学部の先輩であるということでした。それは偏見ではなく、本当にそうでした。荒木支部長は畑田先生と同窓会などで親しくされていたのです。

私は自分でガラスアートを作ることはしませんが、鑑賞することは大好きですので、畑田先生の個展に何回か荒木さんとご一緒させていただきました。そして、その驚きは、文学部の方がアトリエを持ってここまで創作活動をされて、海外の一流の場所で堂々と作品発表をされているということです。

記憶に強く残っているのは、御主人の生家が羽曳野市にあり、国の登録文化財に登録されている旧家なのですが、そこで作品展をされた時のことです。その時の作品と融けあった家全体の雰囲気が強く印象に残っていて、今でも鮮明に覚えています。その後、ついに我が吹田のメイシアターにても開催させていただきました。ありがとうございました。

最近では、昨年の暮れの12月に、ニューヨークで個展を開かれ、また、今年の4月には、地元の池田にて15周年記念の集大成となる発表会を開催されました。その時、久しぶりに顔を出させていただきましたが、先生の代表作品が全て勢揃いでした。中でも私は「太陽と月」に一番心を打たれました。日本人の自然観が凝縮した珠玉の一点です。しばらくの間、お茶をいただきつつ先生との歓談を楽しみ、ご主人様にもご挨拶をして失礼しました。

今後、どのような方向を目指されるのか、引き続き応援させていただきたいと思っております。ありがとうございました。

畑田美智子個展を終えて—MH工房15周年を記念して成果を振り返る

2016年4月6日から11日まで畑田美智子個展が”ギャラリーいけだ”で開催された。6日間で約600名の来場者があったが、多くの人達は、以前に見た人はともかく、被せガラスの作品は初めてという人が大半であった。「和の心と自然の美」をテーマに抹茶用のお茶碗もはじめて展示・お披露目したが、ガラスのお茶碗は珍しいし、被せガラスの色合いが奥深く和の魅力も発揮されているので、このようなお茶碗でお茶を賞味したいという人も多々あり、大変な人気であった。

ランプのコーナーは新作もあり、5層のガラス板は平面でガラス絵のようなので、後ろから光を当てると一段と効果的に映えるので、皆さん「すごい、すごい」と驚嘆され、「月と語る」や「静寂」のテーマに詩心を感じると絶賛された。

ガラスの魅力はやはり絵画とは違い透過性なので、それを効果的にディスプレイすれば作品も映えるし、鑑賞する側にも一層印象的に感じられることは確かである。

これからは見る人の立場でより効果的に光の当て方を考慮する必要があると感じた。今回はニューヨーク個展の整理などで忙しくてそこまでは手が回らなかったが、光とのコラボレーションのガラスの世界では今後の課題になるであろう。最後に観賞者からいろいろご意見、ご感想を聞いたが、その一人に車いすに乗った障害を持つ男性が介助者に伴われて鑑賞されていたが、30分ほど一か所に止まって、一つ一つに見入っていた姿に作品が何か彼にインパクトを与えることが出来たのかとこちらが感激した。

また、新作のガラス板や小ぶりのランプは今迄とは少し違った雰囲気なので、新しい方向性が感じられたという感想も頂いた。

最後に、いつもご支援・ご協力いただいております有恒会の皆様方にあらためて感謝申し上げます。本当に有難うございます。(畑田美智子)

受賞歴 および認定歴

- 2009年 レンブラントハウス美術館名誉会員
- 2009年 レリア・ピサロ財団秀作作家認定
- 2010年 パリ芸術生誕祭にて金メダル受賞
- 2012年 ミレー友好協会 20周年記念展にて公募最優秀賞受賞
- 2012年 日本美術評論家連盟より日本美術評論家大賞受賞
- 2012年 現代秀逸作家選考委員会より最優秀工芸作家大賞受賞
- 2012年 平和貢献芸術賞選考委員会より国際芸術親善大使賞受賞
- 2012年 タイ国立シュラバコーン大学アートセンター名誉顧問に就任
- 2013年 ゴッホ生誕 160周年記念シャンパン芸術祭実行委員会より芸術金賞受賞
- 2013年 タイ王国より日・タイ芸術白象賞受賞
- 2013年 エミール・ガレ賞受賞
- 2013年 第2回日本工芸美術大賞受賞
- 2014年 日独芸術の絆展大賞
- 2014年 箕面市長賞
- 2015年 国美美術展東京大賞
- 2016年 英国王立芸術家協会 (RSBA) 名誉会員に認定

